

平成26年度農畜産業機械等リース支援事業(地域作物支援型)に関する事業評価シート(再評価)
改善計画目標年度(平成30年度)実績に基づく評価

県名	市町村名	事業実施主体名	事業実施年度	改善計画 目標年度	成果目標の具体的な内容	目標数値			事業評価の検証方法	事業計画 の妥当性*	適正な事業 執行*	地方農政局長等の意見
						現状	目標	結果				
北海道	網走市	中園第1利用組合	H26	H30	受益地区において作付面積を増加	91.43ha	93.00ha	94.58ha	作付実態調査の実施	1	2	成果目標を達成しており、事業による取組の成果があったと認められる。
					優良品種の作付面積を増加	8.1%	33.3%	100.0%	作付実態調査の実施	1	2	
北海道	音更町	KTY防除組合	H26	H30	作付面積を10%以上増加	18.60ha	21.0ha	21.3ha	十勝農業共済組合 畑作物共済細目書	1	2	成果目標を達成しており、事業による取組の成果があったと認められる。
					従来品種とは異なる褐斑病、黒根病抵抗性を有する品種の作付面積を18%以上増加	5.00ha	9.50ha	19.10ha	十勝農業共済組合 畑作物共済細目書	1	2	
北海道	足寄町	愛冠生産組合	H26	H30	反当収量を5%増加	5.87t/10a	6.18t/10a	5.81t/10a	JAあしよの土地利用状況調査による把握している収量実績による	1	0	作付面積拡大や労働時間の削減、優良品種の作付については、成果目標を達成している。一方、てん菜の反当収量を5%増加については、天候等の外部的要因により成果目標数値が現状値を下回ったため、目標年度の状況のみで評価を行うことは困難であると判断された。そのため改善計画は求めず、外部的要因による影響を踏まえた代替可能と認められる目標年度等の提示を求め、令和2年度内に再評価を行うこととする。
					作付面積を20%増加	21.43ha	25.90ha	32.88ha	JAあしよの土地利用状況調査による	1	2	
					労働時間を13%削減	2374.44hr	2074.64hr	1111.3hr	北海道農業生産技術体系(第4版)による	1	2	
					優良品種を作付開始	0.00ha	10.90ha	12.90ha	JAあしよの土地利用状況調査による	1	2	
北海道	本別町	美里別ビート組合	H26	H30	作付面積を増加	29.82ha	34.00ha	33.44ha	マッピング(作付実態表)による	1	2	成果目標を概ね達成しており、事業による取組の成果があったと認められる。
					優良品種の作付面積を増加	37.20%	100%	100%	マッピング(作付実態表)による	1	2	
北海道	士別市	ネクストMフロンティア(てん菜)	H26	H30	作付面積を増加	31ha	55ha	56.7ha	作付データをもとに検証	1	2	成果目標を達成しており、事業による取組の成果があったと認められる。
					優良品種の作付面積を増加	0.00%	100.00%	100.00%	作付品種をもとに検証	1	2	
北海道	斜里町	朱円西農機利用組合	H26	H30	優良品種の作付面積を増加	10.30%	31.90%	60.07%	実測面積により検証	1	2	ばれいしょの優良品種の作付の取組は進んでおり、成果目標を達成している。作付面積を増加については、取組は進んでいるものの、ジャガイモシストセンチュウの発生により、事業実施主体の植付予定ほ場の面積が減少したため、当初設定された現状値に対する成果目標の事業評価が困難であると判断された。外部的な要因の発生により評価方法を変更した上で、事業評価を行う必要があると判断されたため、改善計画は求めず、外部的要因による影響を踏まえた代替可能と認められる目標数値等の提示を求め、令和2年度内に再評価を行うこととする。
					作付面積を増加	28.28ha	33.91ha	30.03ha	実測面積により検証	1	2	
北海道	斜里町	拓栄機械利用組合	H26	H30	作付面積を増加	15.61ha	15.97ha	17.47ha	実測面積により検証	1	2	成果目標を達成しており、事業による取組の成果があったと認められる。
					10a当たりの収量を増加	3.47t/10a	3.61t/10a	3.93t/10a	生産数量実績により検証	1	2	
					優良品種の作付面積を増加	68.0%	73.7%	76.1%	実測面積により検証	1	2	
北海道	留寿都村	北留ハーベスタ組合	H26	H30	作付面積を20%以上増加	28.15ha	34ha	34.21ha	農協管理作付実績書より	1	1	成果目標を達成しており、事業による取組の成果があったと認められる。
北海道	倶知安町	扶桑莖葉処理機械利用組合	H26	H30	作付面積を増加	31.5ha	35.5ha	32.70ha	賦課金の実績面積による	1	2	作付面積を増加については、取組は進んでいるものの、ジャガイモシストセンチュウ発生により、事業実施主体の植付予定ほ場の面積が減少したため、当初設定された現状値に対する成果目標の事業評価が困難であると判断された。外部的な要因の発生により評価方法を変更した上で、事業評価を行う必要があると判断されたため、改善計画は求めず、外部的要因による影響を踏まえた代替可能と認められる目標数値等の提示を求め、令和2年度内に再評価を行うこととする。

*事業実施主体が自己評価として、「事業計画の妥当性」の欄には計画が妥当な場合には「1」を、計画が不適切な場合には「0」を記載している。また「適正な事業執行」の欄には、事業が適正に実施された場合には「1」、適正に実施され、さらに競争入札を実施した場合には「2」を、それ以外の場合には「0」を記載している。